

KYOTO, JAPAN IN DUBAI

～ミライ経済文化EXPO with ダイバーシティ2024～

参加企業募集(締切:2023/12/15)

テクノロジー・コンテンツの京都 × 世界一が集積する世界の研究室・ドバイ
ドバイ史上初の日本・京都展

ドバイ政府公認・史上初の「日本・京都展示会」「ドラフト会議(投資家向けピッチ会)」等からなる「Kyoto Japan in Dubai」を開催します。UAE全首長国(7か国)のサポートにより、日本・京都の優れた先端科学技術、伝統技術、食、映像・ゲーム・アニメなどのテクノロジー・コンテンツを有する企業と、王族、VIP(政府・大使館等)、企業・投資家(UAE、ペルシア湾岸各国、北アフリカからインドに集積する世界企業・投資家)、現地人(アラブ人13%、インターナショナル87%)とのビジネスマッチングを図ります。

参加対象

優れた先端科学技術、伝統技術、食、映像・ゲーム・アニメなどのコンテンツ・テクノロジーを有する企業 100～200社(うち京都約半数)

日程・会場

2024/1/22(Mon)～24(Wed)

DUBAI WORLD TRADE CENTER

(来場見込み5万人)

内容・参加コスト

- 展示商談会(アラブ首長国、ペルシア湾岸各国に集積する世界の大企業向け)【出展料(想定:1コマ110万円、半コマ55万円)、造作費用】
- ドラフト会議(アラブ首長国、ペルシア湾岸各国に集積する世界の投資家向け)【20分33万円】
- メディア確約プラン【1100～330万円】
- 越境EC、現地店舗確約、商工会議所・その他要所視察ツアー【調整中】

※現地政府・商工団体の協力により来場企業・投資家を確保予定

※その他経費は【渡航費、宿泊代】等

単なる展示会ではありません。ドバイは、観光面では「世界一」であり、ビジネス面では「世界が集積」、研究開発面では「世界の研究室」です。こうした「世界一」のドバイと「世界唯一」の京都の融合や、経済・産業、文化・芸能、学術・教育など、多様な異なる価値観を有する人・組織が交流・共存するダイバーシティの推進により、これまでに類を見ない新たなプラットフォームとなるものです。

京都合同(割引)ブース

京都に本社登記のある20社限定

テーマ

<1社1件資金調達及びスポンサー獲得を目指す！>
スタートアップ企業をはじめ、世界中の投資家からの資金調達やスポンサー獲得を目指されている多くの京都企業の皆様がこのイベントを機に飛躍的に発展していただけるよう、京都府が出展金額の一部を負担することで、出展料金が割引となるブースです。

参加負担額

出展料20万円割引(京都府補助)

ドラフト会議参加割引

京都に本社登記のある10社限定

京都産業21の協力により、ドラフト会議の参加料に20万円の補助がなされます。

参加負担額

参加料20万円割引(京都産業21補助)

共同主催者: 京都府(ものづくり振興課: 足利、大空、水口、坂井、濱田 / TEL: 075-414-4849 または 4851)、

主催者: KYOTO JAPAN in DUBAI EXPO with ダイバーシティ 2024 実行委員会

(BORDER ZERO: 株式会社マイコンタープライズ他)



京都府

ドバイは「世界一」「世界が集積」「世界の研究室」

ペルシャ湾に面し、漁業や真珠の輸出を産業の主とする小さな漁村だったこの地に、アブダビの首長ナヒヤーン家と同じバニー＝ヤース部族のマクトウム家が、1830年代にアブダビから移住したのに伴ってドバイ首長国が建国されました。

1966年にドバイ沖の海底油田が発見されたものの、現首長シェイク・ムハンマド・ビン・ラーシド・アール・マクトウム殿下の父であるシェイク・ラーシド・ビン・サイド・アール・マクトウム殿下は、埋蔵量の少なさを考慮し、非石油産業の経済・産業路線を敷き、エミレーツ航空の設立(2015時点でドバイ国際空港の旅客数は世界1位)、貿易の要となる大規模人工港の開港(2014年のコンテナ取扱量は世界9位)、自由貿易地域(フリーゾーン)の開業(100%外資の参入を認め、50年間税金免除)などを次々と進めました。

さらに、2006年に首長に即位したシェイク・ムハンマド・ビン・ラーシド・アール・マクトウム殿下は、世界最大の人工島パーム・ジュメイラ、世界最大の額縁ドバイフレーム、世界最大の噴水サ・パーム・ファウンテン、世界最高の建築物ブルジュ・ハリファなど、様々な「世界一」の観光資源を作ることで「世界一が集う観光都市」として、ヒト・モノ・カネが集積する都市を形成しています。

◆ドバイ概況

- ・首長:シェイク・ムハンマド・ビン・ラーシド・アール・マクトウム殿下
- ・面積:3,885平方メートル(埼玉県ほど)
- ・人口:約348万人(2021年末、ドバイ統計センター)
- ・名目GDP:約12兆円(石油産業1%台)
- ・一人当たりGDP:42,884ルと高水準(英国、フランス並み)
- ・観光収入:約3.5兆円(世界1位)(日本全体で4.6兆円/2018年)。

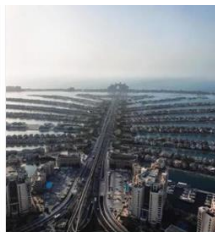
◆「世界一」(観光)



世界最高の建築物:ブルジュ・ハリファ



世界最大の額縁:ドバイフレーム



世界最大の人工島:パーム・ジュメイラ



世界最高(唯一)の「七つ星」ホテル:
ブルジュアラブ



世界最大の噴水:サ・パーム・ファウンテン



世界一の国際線旅客数:
ドバイ国際空港

◆「世界の研究室」(研究開発)



3Dプリンター建築
(SK本舗社ホームページより引用)



ドローンタクシー
(CNET Japanホームページより引用)



火星シミュレーション都市
(Cizezineホームページより引用)

マスタードシティ(アブダビ)

二酸化炭素排出量ゼロを目指す未来型実験都市「マスタードシティ」。マスタードとはアラビア語で「源泉」を意味する言葉で、ここでは、自然の力を利用しながら、街全体の気温調節が行われます。



上空の風を冷気に変えて地面に吹き付ける仕組み(大和ハウス工業ホームページより引用)



シティ内の地下を自動運転で走るEV(大和ハウス工業ホームページより引用)

◆「世界が集積」(ビジネス)

自由貿易地域(「フリーゾーン」/100%外資の参入を認め、50年間税金免除)を開設しています。当初、ドバイの知名度が低く鳴かず飛ばずの時代があったそうですが、1990年の湾岸戦争勃発に伴い、CNNがドバイに拠点を置いたことで、ドバイの安全性への認識が広まったことがきっかけで、多くの外国企業と金融機関が集積するようになりました。さらには2001年の同時多発テロ以降、米国や英国からの厳しい目線により、それまでそれらの国で運用していたオイルマネーの資金運用先がドバイに向けられたことも、ドバイの開発を後押ししています。



ドバイ経済・観光局ホームページより引用